

# 第18回川崎病全国調査成績

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

- ・小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究　－2004年度
- ・子どもの病気に関する包括的データベース（難治性疾患に関する疫学研究データベースを含む）の構築とその利用に関する研究　－2005年度

川崎病研究グループ

[連絡先] 〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-1  
自治医科大学公衆衛生学気付  
川崎病全国疫学調査事務局  
連絡担当 屋代真弓、上原里程

TEL 0285-44-6192

FAX 0285-44-7217

2005年9月1日

# 第 18 回川崎病全国調査成績

## はじめに

1970 年以来 2 年に 1 回の間隔で 17 回にわたって、川崎病全国調査が行なわれてきた<sup>1-28)</sup>。今回 2003 年～ 2004 年の 2 年間の患者を対象に実施した第 18 回川崎病全国調査の成績がまとまった。2 年間の調査成績より、報告患者数、初診年月分布、性・年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、心障害例（急性期、後遺症）、初診時病日、ガンマグロブリン治療開始時病日、退院時病日、初診から退院までの日数、ガンマグロブリン治療（追加治療）、解熱病日、患者紹介等の疫学像を明らかにしたので、一部これまでの調査成績と比較しながらその概要を報告する。

## I. 方法

第 18 回川崎病全国調査は、2003 年 1 月 1 日より 2004 年 12 月 31 日の 2 年間に小児科を併設する 100 床以上の病院、および小児科のみを標榜する 100 床未満の専門病院を受診した川崎病初診患者を対象に実施した。調査を依頼した施設のリストは、医療施設政策研究会編「病院要覧 2003-2004 年版」（医学書院発行）によって作成した。対象候補施設数は 2,335 か所であった。（添付の調査票参照）

## II. 調査結果

### 1. 回収率

依頼状、調査票等を送付した 2,335 施設のうち、廃院等の連絡があった 27 施設を除く 2,308 施設を調査対象とした。回答は 1,618 施設から得られ、回収率は 70.1 % であった。そのうち、患者報告があった施設は 1,058 施設（回収施設の 65.4 %）であった。回収率は、都道府県によって 57.7 %～90.9 % の開きがみられた。

### 2. 年次推移

今回の調査で報告された 2 年間の患者数は、2003 年 9,146 人、2004 年 9,992 人のあわせて 19,138 人であった。性別患者数は、男 11,059 人、女 8,079 人で、2 年間平均の罹患率は 0-4 歳人口 10 万対 170.9（男 192.3、女 148.2）であった。患者数の性比は 1.37、罹患率の性比は 1.30 で男が多かった。過去 17 回に報告された患者を含めると 2004 年 12 月末までの患者数は、合計 205,207 人（男 118,935 人、女 86,272 人）になった。患者数の年次推移をみると、表 1、図 1 に示すように、男女とも着実に増加している。これまでに 1979 年、1982 年、1986 年の 3 回にわたり全国規模の流行がみられ、患者数は 1994 年以降、急勾配で増加していた。1999 年には患者数が 7,000 人を超え、第 1 回目の流行年（1979 年）よりも多くなった。さらに 2000 年には 8,000 人を超え、2003 年は 9,000 人を超え、翌年 2004 年は、1 万人にあと数人となった。この数は史上第 3 位である。罹患率の年次推移をみると、表 1、図 2 に示すように、3 回目の流行後、1994 年には 0-4 歳人口 10 万対 100 を超えた。そのあと、年とともに増加し続け、2004 年の罹患率は 3 回目の流行に匹敵する数値となった。男の罹患率は 196.1 となり、3 回目の流行年である 1986 年の 194.7 を抜いて、史上第 2 位になった。最近の患者発生状況からみて、川崎病の原因究明を目的としたさらに強力な研究体制を確立しなければならない。また、地域ごとの患者発生動向の監視体制を一層強化する必要がある。

### 3. 月別推移

最近 6 年間の月別、性別患者数を図 3 に示す。患者数は各年とも同じような傾向で、すべての月で男が多くなっている。また、10 月は少なく、1 月は多かった。最近の 3 年間は、各月とも以前に比べて多く、2004 年の男は、3 月、7 月と小さい山ができており流行があったことが示唆された。

### 4. 性・年齢分布

患者数の性・年齢別分布をみると、3 歳未満の者の割合は全体の 68.0 %（男 69.7 %、女 65.7 %）であった（表 2）。2003 年、2004 年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも 9-11 か月にピ

ーク（人口 10 万対 男 335.0、女 227.2）をもつ一峰性の山がみられた。罹患率の性比は、月齢が 6-8 か月の者で最も大きく 1.51 であった（図 4）。

## 5. 地域分布

2 年間の患者住所都道府県別報告数が最も多かったのは、東京 1,798 人、次いで神奈川 1,448 人、大阪 1,263 人、愛知 1,246 人の順であった。観察した両年の年次別都道府県別罹患率を 0-4 歳人口 10 万対の割合で計算した（都道府県別罹患率の分母は、2000 年国勢調査人口を使用し、全国の罹患率は各年次の推定人口を用いて計算した。ただし 2004 年は前年の人口を使用）。両年とも罹患率が著しく高いところは、宮城、和歌山、石川などであった。また 2 年間とも低いところは、新潟、沖縄、富山などであった（表 3）。

2001 年～ 2004 年の各年について、都道府県別罹患率の地図を作成した（図 5）。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ患者数があると仮定して回収率を 100 % に補正して、0-4 歳人口 10 万対罹患率の地域差を示した。2001 年には、関東甲信越を中心とした内陸部のほか、九州、中国、近畿、東北の一部の県で高くなっており、罹患率の高い地域は分散していた。2002 年には、高率地域は近隣に拡がり、北海道から九州まで広い地域で患者数の増加がみられた。2003 年には、さらに流行が全国に広がっていた。2004 年には、関東以西の多くの都道府県に高率地域が集中していたが、東北、北海道などの北日本では、高率地域はほとんどみられなかった。

## 6. 診断

診断基準への一致度をみると、定型例 83.3 %（男 83.2 %、女 83.4 %）、不定型例 3.2 %（男 3.5 %、女 2.7 %）、容疑例 13.6 %（男 13.3 %、女 13.9 %）であった。

なお、定型例（調査票では「確実 A」とした）は「川崎病診断の手引き 改訂 5 版（2002 年 2 月に診断の手引きが改訂され、第 17 回全国調査から改訂 5 版を使用）」に示された 6 つの主要症状のうち 5 つ以上の症状を伴う者、不定型例（「確実 B」）は 4 つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは、心血管造影法で、冠動脈瘤（いわゆる拡大を含む）が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また容疑例（「容疑」）は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断して全国調査に報告した者をいう。

## 7. 家族歴

同胞例ありの割合は報告患者中 1.1 %（男 1.0 %、女 1.2 %）であった。

両親のいずれかに川崎病の既往歴ありの者は 75 人（男 48 人、女 27 人）報告され、報告患者中 0.4 %（男 0.5 %、女 0.3 %）であった。既往歴を有する両親の内訳は父 31 人、母 44 人であり、この数字は前回報告（32 人（父 14 人、母 18 人））の 2 倍以上であった。

## 8. 再発例

再発例の割合は報告患者中 3.7 %（男 3.6 %、女 3.8 %）であった。

性・年齢別にみると男は、年齢とともに増加、女は 4 歳で一時減少したが、その後、年齢とともに増加していた。

## 9. 死亡例

死亡例は、前を上回り 2 年間に 8 人（男 4 人、女 4 人）報告された。致命率は 0.04 % であり、性差はみられなかったが、年齢別には 5 歳以上が他の年齢と比べて著しく高く 0.14 % であった（表 4）。

## 10. 心障害例

心障害については、発病後 1 か月以内に出現した急性期の心障害と 1 か月以降も残存する後遺症にわけて調査を実施した。

報告患者中の心障害例（急性期）の割合は 13.6 %（男 15.4 %、女 11.1 %）、心障害例（後遺症）の割合は 4.4 %（男 5.2 %、女 3.3 %）であり、後遺症は急性期に比べて男女とも約 1/3 に低

下していた。両者とも男が高率を示し、性・年齢別にみると男女とも6か月未満の若年児と高年児が高く、1歳または2歳に窪みをもつゆるやかなU字型のカーブを示していた（図6）。

心障害（急性期）の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大10.31%、瘤1.84%、弁膜病変1.71%、巨大瘤0.44%、狭窄0.03%、心筋梗塞0.02%であった。前回と比べて、拡大が減少し、巨大瘤が増加した。男女別にみると弁膜病変以外は男が高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤、拡大、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられた。中でも巨大瘤は2歳以上が2歳未満に比べて約1.8倍の出現率であった。

心障害（後遺症）の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大2.51%、瘤1.32%、弁膜病変0.47%、巨大瘤0.36%、狭窄0.07%、心筋梗塞0.01%であった。男女別にみると、弁膜病変および心筋梗塞以外は男が高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤のみ2歳以上に高率にみられた。急性期と同様に2歳以上の巨大瘤の出現率は2歳未満に比べて1.7倍以上であった（表5）。

### 1 1. 初診時病日およびガンマグロブリン治療開始時病日

患者の初診日は第4病日が最も多く23.2%であり、第4病日までに受診した者は66.6%であった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第4病日までに受診した者は2歳未満の者では70.6%を占めていたが、2歳以上の者では62.5%であり、2歳未満の若年児が早く受診する傾向を示していた。

ガンマグロブリンの投与開始日は第5病日が最も多く36.0%であった。年齢別にみると、2歳未満が早く投与を開始する傾向がみられ、第5病日までに投与を開始した者の割合は2歳未満では69.0%、2歳以上では58.1%であった（表6）。

### 1 2. 退院時病日および初診から退院までの日数

患者の退院時病日は第13-15病日が最も多く23.4%であり、第21病日までに退院した者は79.8%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第21病日までに退院した者は2歳未満の者が80.0%、2歳以上の者は79.5%であり、ほとんど年齢差はみられなかった。

初診から退院までの日数は10-12日が最も多く22.6%であった。15日以内に退院する者は66.3%を占めており、年齢別にも差はみられなかった（表7）。

### 1 3. ガンマグロブリン治療

ガンマグロブリンの治療を受けた者は85.8%（男86.2%、女85.2%）を占めていた。

ガンマグロブリン1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの者が最も多く47.9%、次いで900-1099mg/kg39.6%、300-499mg/kg7.9%となっていた。200mg/kg、400mg/kg、1000mg/kg、2000mg/kgちょうど、その他という区分では、2000mg/kgが最も多く45.5%、次いで1000mg/kg38.4%、その他9.4%の順であった。投与期間は1日が最も多く、63.5%、次いで2日27.0%、5日以上7.4%であった。前回に比べて短期間大量投与がさらに増加した（表8）。

ガンマグロブリンの1日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099mg/kgが最も多く79.6%、次いで900-1099mg/kgが13.9%、2100mg/kg+が1.8%であった。1000mg/kg、2000mg/kg、その他という区分では、2000mg/kgが最も多く76.4%、次いで1000mg/kg13.2%、その他10.3%の順であった（図7）。

初回ガンマグロブリン使用例で、追加治療ありの割合は、ガンマグロブリン追加投与15.6%、ステロイド投与3.1%、ウリナスタチン投与7.5%、血漿交換0.2%であった。診断別では、いずれも定型例で追加治療ありの割合が高く、2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、血漿交換以外は2歳以上で高かった（表9）。

### 1 4. 解熱病日

解熱病日は第7病日が最も多く21.9%であり、第8病日までに解熱した者は69.7%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第8病日までに解熱した者は2歳未満の者が73.6%、2歳以上の者は65.7%であり、2歳以上の者の方が解熱に要する日数が長かった（表10）。

## 15. 患者紹介の有無

他施設より患者紹介ありの割合は、診療所より紹介 53.4 %、病院より紹介 8.9 %で、62.2 %がいずれかの施設より紹介ありであった。診断別には、定型例 62.8 %、不定型例 58.5 %、容疑例 59.5 %で差はみられなかった。年齢別には2歳未満 62.3 %、2歳以上 62.1 %で年齢差はなかった（表11）。

他施設へ患者紹介ありの割合は、4.9 %であった。診断別には、定型例 4.5 %、不定型例 6.1 %、容疑例 6.6 %で、不定型例、容疑例が高かった。年齢別にはほとんど年齢差はなかった（表12）。

## III. 要約

1. 2年間の報告患者数は 19,138 人（2003 年 9,146 人、2004 年 9,992 人）であり、1987 年以降患者数は着実に増加していた。

2. 最近6年間（2001-2004 年）の月別患者数は男女とも、10 月が少なく1月が多かった。またすべての月で男が多かった。

3. 0-4 歳人口 10 万対罹患率は、2003 年 159.2（男 179.2、女 138.2）、2004 年 174.0（男 196.1、女 150.7）であった。2004 年の男の罹患率は、史上第2位となった。

4. 性、年齢別罹患率は男女とも9-11 月にピーク（人口 10 万対 男 335.0 女 227.2）がみられた。

5. 最近4年間の罹患率の地域差をみると、年によって患者数が多い地域が異なっており、4年間に北海道から九州まで広い地域で患者数の増加がみられた。2004 年には関東以西の多くの都道府県に高率地域が集中していた。

6. 診断基準への一致度をみると、定型例 83.3 %、不定型例 3.2 %、容疑例 13.6 %であった。

7. 同胞例、再発例、心障害（急性期）例、心障害（後遺症）例の出現頻度は、それぞれ 1.1 %、3.7 %、13.6 %、4.4 %であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴がある者の割合は 0.4 %であった。

8. 死亡例は2年間に8人（男4人、女4人）報告され、全体の 0.04 %を占めていた。年齢別には、5歳以上が 0.14 %で最も高かった。

9. 心障害（急性期）の内容は、冠動脈の拡大 10.31 %、瘤 1.84 %、弁膜病変 1.71 %、巨大瘤 0.44 %、狭窄 0.03 %、心筋梗塞 0.02 %であり、弁膜病変以外は男が高く、年齢別には巨大瘤、拡大、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられ、特に巨大瘤は2歳以上が2歳未満に比べて約 1.8 倍の出現率であった。

10. 心障害（後遺症）の内容は、冠動脈の拡大 2.51 %、瘤 1.32 %、弁膜病変 0.47 %、巨大瘤 0.36 %、狭窄 0.07 %、心筋梗塞 0.01 %であり、弁膜病変および心筋梗塞以外は男が高く、年齢別には巨大瘤のみ2歳以上で高率にみられた。急性期と同様に2歳以上の巨大瘤の出現率は2歳未満に比べてかなり高かった。

11. 患者の初診日は第4病日が最も多く、2歳未満の若年児がやや早く受診していた。ガンマグロブリンの投与開始病日は、第5病日が最も多く、2歳未満の若年児が早く投与を開始する傾向がみられた。

12. 患者の退院時病日は第13-15 病日が最も多かった。初診から退院までの日数は10-12 日以内が最も多く、66.3 %が15 日以内に退院していた。いずれも年齢差はみられなかった。

13. ガンマグロブリンの治療を受けた者は 85.8 %を占め、1日あたり投与量は 2000mg/kg がもっとも多く、1日大量投与が増加していた。総投与量は、2000mg/kg が最も多く 76.4 %、次いで 1000mg/kg 13.2 %、その他 10.3 %の順であった。追加治療の状況は、ガンマグロブリン追加投与 15.6 %、ステロイド投与 3.1 %、ウリナスタチン投与 7.5 %、血漿交換 0.2 %であった。

14. 解熱病日は第7病日が最も多かった。第8病日まで解熱した者は 69.7 %を占めていた。年齢別には2歳以上の者の方が解熱に日数を要していた。

15. 他施設からの紹介患者は 62.2 %（診療所 53.4 %、病院 8.9 %）であった。診断別、年齢別に差はみられなかった。他施設への紹介患者は 4.9 %であった。診断別には、不定型例、容疑例で紹介ありの割合が高く、年齢別にはほとんど差はみられなかった。

## 文献

- 1) 小児MCL S研究班(班長:神前章雄). 小児MCL S全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975;22(6):306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975;5(12):22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976;34(2):275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCL S(川崎病)の実態, 一第5回全国調査結果の速報一. 小児科 1979;20(7):755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCL S(川崎病の多発)一第6回全国調査成績の速報一. 小児科 1981;22(1):53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCL S(川崎病)の実態, 一第7回全国調査成績の速報一. 小児科 1983;24(1):53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985;26(9):1049-1053.
- 9) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987;28(9):1059-1066.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990;31(5):569-576.
- 11) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992;33(3):309-316.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994;35(1):61-73.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996;37(4):363-383.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998;61(3):406-420.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000;63(1):121-132.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002;65(2):332-342.
- 17) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004;67(2):313-323.
- 18) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京:ソフトサイエンス社, 1986;37-51.
- 19) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病(川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京:南江堂, 1988;18-31.
- 20) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作(編). 川崎病の疫学一30年間の総括一. 東京:診断と治療社, 2002.
- 21) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974;54:271-276.
- 22) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987;80:58-62.
- 23) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988;158(6):1296-1301.
- 24) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995;95(4):475-479.
- 25) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med 1995;149:779-783.
- 26) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. J Epidemiol 1996;6(3):148-157.
- 27) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. Pediatrics 102(6).URL:<http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/102/6/e65>.
- 28) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. Pediatrics 2001;107(3).URL:<http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/107/3/e33>.

[ 表 1 ] 性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0-4歳10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
~1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0(-)
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	174.0	196.1	150.7	4(0.04)
計	205,207	118,935	86,272	—	—	—	427(0.21)

\*罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2004年は2003年の推計人口)を用いた。前回調査の2002年は2001年の人口を用いたので今回2002年の人口で修正した。

[表2] 年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2003年				2004年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	19,138	170.9	11,059	8,079	9,146	163.3	5,281	3,865	9,992	178.4	5,778	4,214
0-2か月	382	68.2	231	151	188	67.1	121	67	194	69.3	110	84
3-5か月	1,385	247.3	831	554	698	249.3	413	285	687	245.4	418	269
6-8か月	1,480	264.3	909	571	716	255.7	447	269	764	272.9	462	302
9-11か月	1,582	282.5	963	619	728	260.0	433	295	854	305.0	530	324
12-14か月	1,438	250.3	866	572	690	240.2	435	255	748	260.4	431	317
15-17か月	1,280	222.8	760	520	574	199.8	337	237	706	245.8	423	283
18-20か月	1,151	200.3	696	455	513	178.6	301	212	638	222.1	395	243
21-23か月	1,047	182.2	604	443	538	187.3	315	223	509	177.2	289	220
2歳-	1,759	151.9	975	784	828	143.0	445	383	931	160.8	530	401
2歳6か月-	1,513	130.7	872	641	708	122.3	409	299	805	139.0	463	342
3歳-	1,224	105.9	681	543	607	105.0	329	278	617	106.7	352	265
3歳6か月-	1,080	93.4	582	498	482	83.4	274	208	598	103.5	308	290
4歳-	1,690	72.8	959	731	847	73.0	489	358	843	72.7	470	373
5歳-	999	42.1	500	499	482	40.6	232	250	517	43.5	268	249
6歳-	516	21.7	265	251	253	21.3	125	128	263	22.2	140	123
7歳-	257	10.8	146	111	121	10.2	65	56	136	11.5	81	55
8歳-	157	6.6	82	75	84	7.1	43	41	73	6.1	39	34
9歳-	96	4.4	58	38	44	3.7	30	14	52	4.4	28	24
10歳以上	102	0.8	79	23	45	0.7	38	7	57	0.9	41	16

\*罹患率の計算には2003年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

\*\*総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。



[表3] 患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2001年				2002年				2003年				2004年			
	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*
	総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
全国**	8,113	4,588	3,525	138.8	8,839	5,156	3,683	151.9	9,146	5,281	3,865	159.2	9,992	5,778	4,214	174.0
1:北海道	286	169	117	120.2	393	217	176	165.1	406	220	186	170.6	363	208	155	152.5
2:青森	77	39	38	116.7	87	52	35	131.8	100	54	46	151.5	102	64	38	154.5
3:岩手	74	43	31	117.5	73	43	30	115.9	84	51	33	133.3	76	42	34	120.6
4:宮城	135	81	54	123.9	158	87	71	145.0	220	114	106	201.8	228	124	104	209.2
5:秋田	58	34	24	123.4	61	39	22	129.8	54	30	24	114.9	54	32	22	114.9
6:山形	118	58	60	210.7	84	46	38	150.0	86	55	31	153.6	79	51	28	141.1
7:福島	141	82	59	136.9	137	77	60	133.0	165	91	74	160.2	162	88	74	157.3
8:茨城	167	94	73	116.8	153	89	64	107.0	200	114	86	139.9	222	136	86	155.2
9:栃木	125	68	57	131.6	132	72	60	138.9	149	87	62	156.8	164	85	79	172.6
10:群馬	177	96	81	184.4	171	107	64	178.1	180	108	72	187.5	168	93	75	175.0
11:埼玉	340	199	141	101.8	376	218	158	112.6	426	248	178	127.5	537	303	234	160.8
12:千葉	384	200	184	140.7	457	265	192	167.4	490	264	226	179.5	606	352	254	222.0
13:東京	781	419	362	163.7	880	524	356	184.5	812	474	338	170.2	917	527	390	192.2
14:神奈川	667	380	287	165.1	721	430	291	178.5	714	431	283	176.7	764	431	333	189.1
15:新潟	105	71	34	94.6	106	61	45	95.5	104	56	48	93.7	117	69	48	105.4
16:富山	44	22	22	86.3	34	19	15	66.7	33	19	14	64.7	48	32	16	94.1
17:石川	77	46	31	135.1	108	64	44	189.5	113	55	58	198.2	143	88	55	250.9
18:福井	71	39	32	173.2	85	52	33	207.3	91	54	37	222.0	55	35	20	134.1
19:山梨	38	16	22	88.4	50	28	22	116.3	55	32	23	127.9	45	20	25	104.7
20:長野	183	105	78	171.0	144	79	65	134.6	179	110	69	167.3	220	141	79	205.6
21:岐阜	132	74	58	129.4	142	77	65	139.2	160	94	66	156.9	190	106	84	186.3
22:静岡	276	148	128	153.3	331	191	140	183.9	273	152	121	151.7	340	194	146	188.9
23:愛知	469	262	207	127.8	510	301	209	139.0	550	338	212	149.9	675	384	291	183.9
24:三重	146	77	69	164.0	151	99	52	169.7	162	92	70	182.0	168	100	68	188.8
25:滋賀	80	41	39	112.7	85	48	37	119.7	90	53	37	126.8	107	69	38	150.7
26:京都	197	114	83	166.9	192	113	79	162.7	205	112	93	173.7	232	130	102	196.6
27:大阪	523	315	208	109.4	586	352	234	122.6	601	354	247	125.7	670	406	264	140.2
28:兵庫	411	239	172	152.8	438	240	198	162.8	436	256	180	162.1	477	266	211	177.3
29:奈良	93	43	50	138.8	104	51	53	155.2	98	57	41	146.3	109	71	38	162.7
30:和歌山	85	55	30	173.5	84	47	37	171.4	100	64	36	204.1	103	58	45	210.2
31:鳥取	18	14	4	64.3	23	9	14	82.1	42	21	21	150.0	43	27	16	153.6
32:島根	29	19	10	87.9	33	19	14	100.0	49	24	25	148.5	37	25	12	112.1
33:岡山	121	61	60	130.1	129	79	50	138.7	86	57	29	92.5	115	73	42	123.7
34:広島	247	143	104	181.6	214	124	90	157.4	246	142	104	180.9	281	155	126	206.6
35:山口	88	45	43	133.3	100	59	41	151.5	103	59	44	156.1	72	39	33	109.1
36:徳島	42	25	17	120.0	57	37	20	162.9	53	40	13	151.4	71	43	28	202.9
37:香川	59	34	25	125.5	68	44	24	144.7	59	42	17	125.5	81	47	34	172.3
38:愛媛	97	57	40	144.8	113	61	52	168.7	143	75	68	213.4	111	66	45	165.7
39:高知	40	21	19	117.6	45	29	16	132.4	29	12	17	85.3	38	16	22	111.8
40:福岡	405	240	165	173.8	423	251	172	181.5	384	222	162	164.8	383	230	153	164.4
41:佐賀	58	34	24	131.8	57	34	23	129.5	73	45	28	165.9	51	28	23	115.9
42:長崎	75	42	33	104.2	70	35	35	97.2	119	65	54	165.3	96	51	45	133.3
43:熊本	135	88	47	157.0	162	99	63	188.4	119	70	49	138.4	173	92	81	201.2
44:大分	79	39	40	143.6	85	53	32	154.5	96	50	46	174.5	85	47	38	154.5
45:宮崎	58	37	21	103.6	73	46	27	130.4	67	40	27	119.6	54	38	16	96.4
46:鹿児島	65	41	24	79.3	98	57	41	119.5	90	55	35	109.8	107	61	46	130.5
47:沖縄	37	19	18	44.6	56	32	24	67.5	52	23	29	62.7	51	34	17	61.4
48:国外	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	2	1	1	-

\*都道府県別罹患率は2000年国勢調査人口を用いて計算した。

\*\*全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2004年は前年の推計人口を使用)。

[ 表 4 ] 性別、年齢別死亡例の割合

総 数		総 数	死亡例	(%)
		19,138	8	0.04
性別	男	11,059	4	0.04
	女	8,079	4	0.05
初診時年齢別	0-11か月	4,829	1	0.02
	12-23か月	4,916	2	0.04
	2歳-4歳	7,266	2	0.03
	5歳以上	2,127	3	0.14

[ 表5 ] 種類別、性別、年齢別心障害の出現率

		総 数	巨大瘤	瘤	拡大	狭窄	心筋梗塞	弁膜病変	
急性期	総 数		19,138 (100.0)	85 (0.44)	353 (1.84)	1,974 (10.31)	5 (0.03)	4 (0.02)	327 (1.71)
	性別	男	11,059 (100.0)	65 (0.59)	251 (2.27)	1,300 (11.76)	4 (0.04)	3 (0.03)	172 (1.56)
		女	8,079 (100.0)	20 (0.25)	102 (1.26)	674 (8.34)	1 (0.01)	1 (0.01)	155 (1.92)
	年齢別	2歳未満	9,745 (100.0)	31 (0.32)	193 (1.98)	999 (10.25)	3 (0.03)	3 (0.03)	155 (1.59)
		2歳以上	9,393 (100.0)	54 (0.57)	160 (1.70)	975 (10.38)	2 (0.02)	1 (0.01)	172 (1.83)
	後遺症	総 数		19,138 (100.0)	69 (0.36)	252 (1.32)	480 (2.51)	14 (0.07)	2 (0.01)
性別		男	11,059 (100.0)	53 (0.48)	178 (1.61)	332 (3.00)	9 (0.08)	1 (0.01)	45 (0.41)
		女	8,079 (100.0)	16 (0.20)	74 (0.92)	148 (1.83)	5 (0.06)	1 (0.01)	44 (0.54)
年齢別		2歳未満	9,745 (100.0)	26 (0.27)	129 (1.32)	259 (2.66)	9 (0.09)	2 (0.02)	46 (0.47)
		2歳以上	9,393 (100.0)	43 (0.46)	123 (1.31)	221 (2.35)	5 (0.05)	—	43 (0.46)

[表6] 年齢別、初診時およびガンマグロブリン投与開始時病日の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
* 初診時	総数	19,132	100.0	9,743	100.0	9,389	100.0
	第1病日	1,140	5.96	728	7.47	412	4.39
	第2病日	2,929	15.31	1,704	17.49	1,225	13.05
	第3病日	4,249	22.21	2,275	23.35	1,974	21.02
	第4病日	4,431	23.16	2,171	22.28	2,260	24.07
	第5病日	3,325	17.38	1,605	16.47	1,720	18.32
	第6病日	1,618	8.46	694	7.12	924	9.84
	第7病日	714	3.73	265	2.72	449	4.78
	第8病日	322	1.68	124	1.27	198	2.11
	第9病日	148	0.77	60	0.62	88	0.94
	第10病日以上	256	1.34	117	1.20	139	1.48
** ガンマグロブリン投与時	総数	15,845	100.0	8,082	100.0	7,763	100.0
	第1病日	14	0.09	13	0.16	1	0.01
	第2病日	190	1.20	124	1.53	66	0.85
	第3病日	969	6.12	602	7.45	367	4.73
	第4病日	3,205	20.23	1,846	22.84	1,359	17.51
	第5病日	5,708	36.02	2,988	36.97	2,720	35.04
	第6病日	3,209	20.25	1,456	18.02	1,753	22.58
	第7病日	1,459	9.21	590	7.30	869	11.19
	第8病日	576	3.64	232	2.87	344	4.43
	第9病日	259	1.63	104	1.29	155	2.00
	第10病日以上	256	1.62	127	1.57	129	1.66

\*初診時病日不明 6人を除く19,132人を集計した。

\*\*ガンマグロブリン使用例16,413人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明568人を除く15,845人を集計した。

[表7] 年齢別、退院時病日・初診から退院までの日数の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
*退院時病日	総数	18,558	100.0	9,461	100.0	9,097	100.0
	第1-9病日	1,189	6.4	680	7.2	509	5.6
	第10-12病日	2,884	15.5	1,543	16.3	1,341	14.7
	第13-15病日	4,339	23.4	2,214	23.4	2,125	23.4
	第16-18病日	3,869	20.8	1,916	20.3	1,953	21.5
	第19-21病日	2,523	13.6	1,216	12.9	1,307	14.4
	第22-24病日	1,344	7.2	673	7.1	671	7.4
	第25-27病日	855	4.6	444	4.7	411	4.5
	第28-30病日	538	2.9	278	2.9	260	2.9
	第31病日以上	1,017	5.5	497	5.3	520	5.7
**初診から退院までの日数	総数	18,556	100.0	9,461	100.0	9,095	100.0
	1-9日	4,164	22.4	2,109	22.3	2,055	22.6
	10-12日	4,202	22.6	2,173	23.0	2,029	22.3
	13-15日	3,938	21.2	1,984	21.0	1,954	21.5
	16-18日	2,430	13.1	1,215	12.8	1,215	13.4
	19-21日	1,415	7.6	724	7.7	691	7.6
	22-24日	880	4.7	479	5.1	401	4.4
	25-27日	487	2.6	248	2.6	239	2.6
	28-30日	352	1.9	181	1.9	171	1.9
	31日以上	688	3.7	348	3.7	340	3.7

\*退院時病日不明および入院なし580人を除く18,558人を集計した。

\*\*初診時病日あるいは退院時病日不明および入院なしを含む582人を除く18,556人を集計した。

[表8] ガンマグロブリン1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数(%)		1日	2日	3日	4日	5日以上
総数*		16,296	100.0	10,356	4,398	190	153	1,199
		(100.0)		(63.5)	(27.0)	(1.2)	(0.9)	(7.4)
	-299mg/kg	135	1	8	14	12	11	90
	-499mg/kg	1,286	7.9	16	37	94	60	1,079
	-699mg/kg	159	1.0	6	19	36	71	27
	-899mg/kg	61	0.4	11	29	18	0	3
	-1099mg/kg	6,454	39.6	2,176	4,240	27	11	0
	-1299mg/kg	94	0.6	72	21	1	0	0
	-1499mg/kg	18	0.1	18	0	0	0	0
	-1699mg/kg	34	0.2	34	0	0	0	0
	-1899mg/kg	145	0.9	143	2	0	0	0
	-2099mg/kg	7,812	47.9	7,777	33	2	0	0
	2100mg/kg+	98	0.6	95	3	0	0	0
	再掲	200mg/kg	66	0.4	3	5	3	3
400mg/kg		1,041	6.4	10	33	65	36	897
1000mg/kg		6,250	38.4	2,088	4,126	25	11	0
2000mg/kg		7,411	45.5	7,380	29	2	0	0
その他		1,528	9.4	875	205	95	103	250

\*ガンマグロブリン使用例16,413人のうち1日投与量、投与日数不明117人を除く16,296人を集計した。

( )内は横向きを示す。

[ 表 9 ] 診断別、年齢別追加治療ありの割合

総数*		総数(%)	ガンマグロブリン追加投与	ステロイド投与	ウリナスタチン投与	血漿交換
		16,413 (100.0)	2,561 (15.6)	508 (3.1)	1,223 (7.5)	28 (0.2)
診断別	定型例	14,563 (100.0)	2,360 (16.2)	476 (3.3)	1,130 (7.8)	26 (0.2)
	不定型例	477 (100.0)	72 (15.1)	8 (1.7)	28 (5.9)	1 (0.2)
	容疑例	1,373 (100.0)	129 (9.4)	24 (1.7)	65 (4.7)	1 (0.1)
年齢別	2歳未満	8,353 (100.0)	1,232 (14.7)	219 (2.6)	582 (7.0)	14 (0.2)
	2歳以上	8,060 (100.0)	1,329 (16.5)	289 (3.6)	641 (8.0)	14 (0.2)

\*ガンマグロブリン使用例16,413人を集計した。

[ 表10 ] 年齢別、解熱病日の分布

	総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
総数*	18,668	100.0	9,512	100.0	9,156	100.0
第1-4病日	696	3.7	469	4.9	227	2.5
第5病日	1,606	8.6	1,006	10.6	600	6.6
第6病日	3,464	18.6	2,004	21.1	1,460	15.9
第7病日	4,088	21.9	2,135	22.4	1,953	21.3
第8病日	3,160	16.9	1,384	14.6	1,776	19.4
第9病日	2,127	11.4	913	9.6	1,214	13.3
第10病日	1,325	7.1	577	6.1	748	8.2
第11病日	722	3.9	334	3.5	388	4.2
第12病日	462	2.5	196	2.1	266	2.9
第13病日	261	1.4	101	1.1	160	1.7
第14病日	179	1.0	86	0.9	93	1.0
第15-19病日	363	1.9	190	2.0	173	1.9
第20-24病日	132	0.7	72	0.8	60	0.7
第25-29病日	49	0.3	29	0.3	20	0.2
第30病日以上	34	0.2	16	0.2	18	0.2

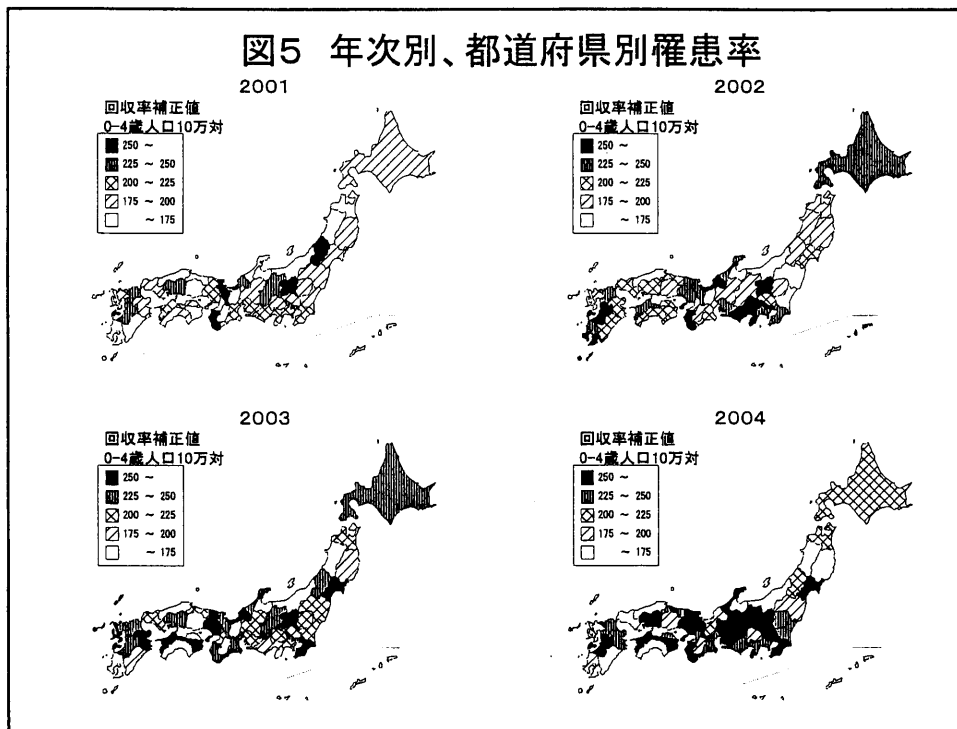
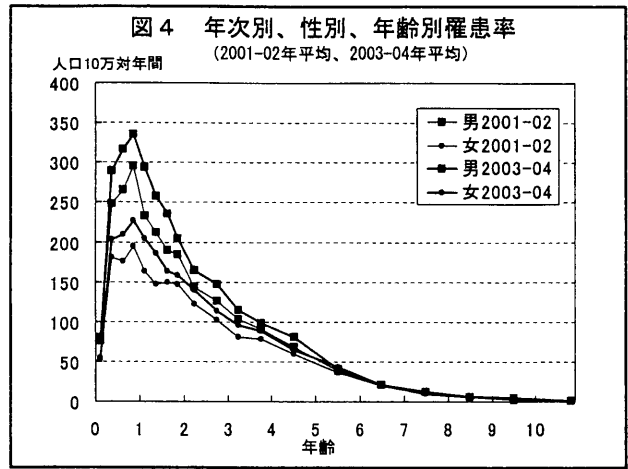
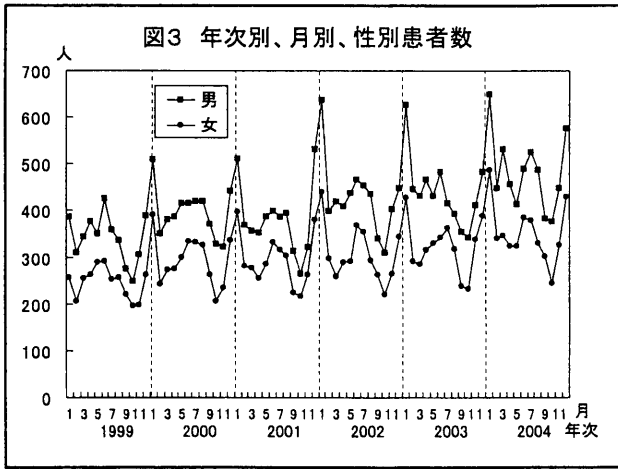
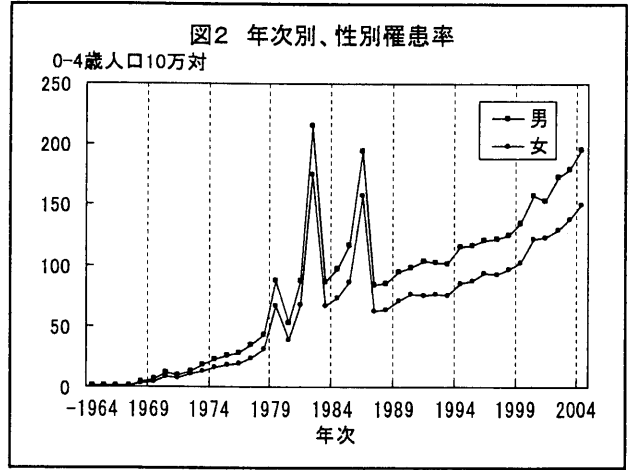
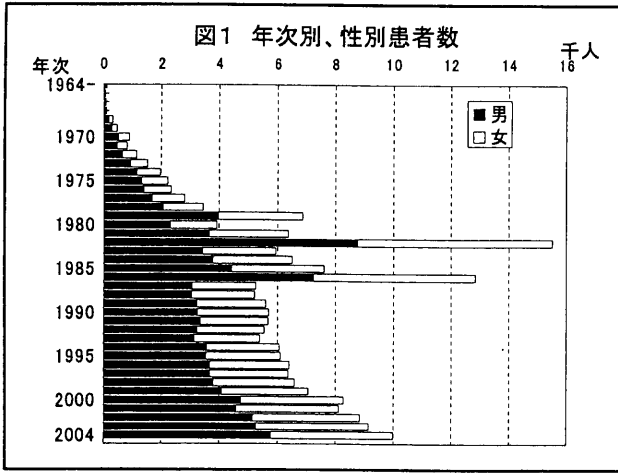
\*解熱病日不明および発熱なし470人を除く18,668人を集計した。

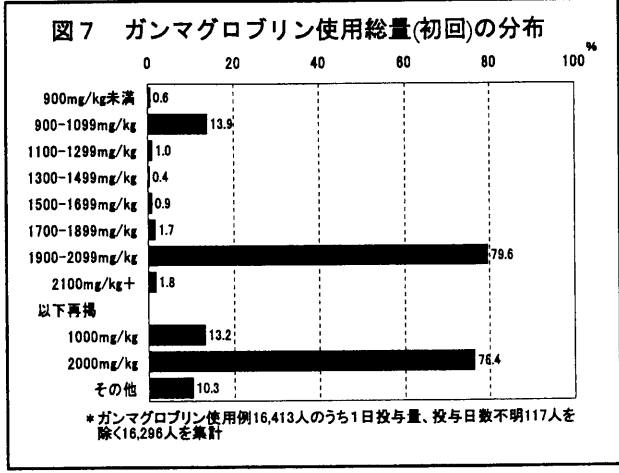
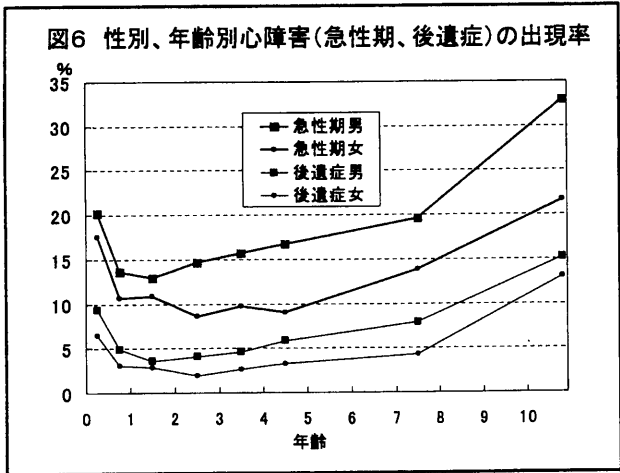
[ 表 11 ] 診断別、年齢別他施設より患者紹介の有無

総数		総数 (%)	あり			なし (%)
			計 (%)	診療所 (%)	病院 (%)	
		19,138 (100.0)	11,910 (62.2)	10,213 (53.4)	1,697 (8.9)	7,228 (37.8)
診断別	定型例	15,940 (100.0)	10,014 (62.8)	8,577 (53.8)	1,437 (9.0)	5,926 (37.2)
	不定型例	603 (100.0)	353 (58.5)	288 (47.8)	65 (10.8)	250 (41.5)
	容疑例	2,595 (100.0)	1,543 (59.5)	1,348 (51.9)	195 (7.5)	1,052 (40.5)
年齢別	2歳未満	9,745 (100.0)	6,076 (62.3)	5,239 (53.8)	837 (8.6)	3,669 (37.7)
	2歳以上	9,393 (100.0)	5,836 (62.1)	4,974 (53.0)	862 (9.2)	3,559 (37.9)

[ 表 12 ] 診断別、年齢別他施設へ患者紹介の有無

総数		総数 (%)	あり (%)	なし (%)
		19,138 (100.0)	930 (4.9)	18,208 (95.1)
診断別	定型例	15,940 (100.0)	723 (4.5)	15,217 (95.5)
	不定型例	603 (100.0)	37 (6.1)	566 (93.9)
	容疑例	2,595 (100.0)	170 (6.6)	2,425 (93.4)
年齢別	2歳未満	9,745 (100.0)	472 (4.8)	9,273 (95.2)
	2歳以上	9,393 (100.0)	458 (4.9)	8,935 (95.1)





第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究班として深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた医療機関名を付記します。

(記載につきましては、細心の注意を払いましたが、誤りがある場合はどうぞご容赦ください。)



## 第18回全国調査協力施設名 (都道府県別、順不同)

### 1. 北海道

国立函館病院  
独立行政法人国立病院機構道北病院  
北大医学部附属病院  
NTT 東日本札幌病院  
札幌医科大学附属病院  
道立旭川肢体不自由児総合療育センター  
道立紋別病院  
道立羽幌病院  
市立札幌病院  
市立小樽病院  
市立函館病院  
市立江別総合病院  
市立千歳市民病院  
市立三笠総合病院  
岩見沢市立総合病院  
市立美唄病院  
町立長沼病院  
市立赤平総合病院  
深川市立総合病院  
市立旭川病院  
名寄市立総合病院  
市立室蘭総合病院  
苫小牧市立総合病院  
白老町立国民健康保険病院  
町立芽室病院  
市立根室病院  
町立中標津病院  
町立別海病院  
市立稚内病院  
留萌市立病院  
函館赤十字病院  
栗山赤十字病院  
総合病院旭川赤十字病院  
伊達赤十字病院  
清水赤十字病院  
総合病院釧路赤十字病院  
総合病院北見赤十字病院  
社会事業協会・函館病院  
社会事業協会・余市病院  
厚生連総合病院札幌厚生病院  
JA 厚生連総合病院旭川厚生病院  
JA 厚生連総合病院遠軽厚生病院  
北海道社会保険病院  
新日鉄室蘭総合病院  
王子総合病院  
函館五稜郭病院  
函館中央病院  
共愛会病院  
天使病院  
大原病院  
札幌社会保険総合病院  
五輪橋産科婦人科小児科病院  
育愛会札幌東豊病院  
慶愛病院  
ふらの西病院  
医療法人社団宏翔館十勝の杜病院  
道東勤医協釧路協立病院  
北楡会札幌北楡病院  
北翔会札幌あゆみの園  
北海道済生会西小樽病院  
独立行政法人国立病院機構帯広病院  
自衛隊札幌病院  
木古内町国民健康保険病院  
国家公務員共済組合連合会幌南病院  
旭川医科大学医学部附属病院  
(財)小児愛育協会附属愛育病院  
北海道療育園  
勤医協中央病院  
(医社)友愛会恵愛病院  
道立小児総合保健センター  
清和会南札幌病院  
美唄労災病院  
道北勤医協一条クリニック  
釧路労災病院  
国療美幌病院  
恵庭第一病院  
市立土別総合病院  
八雲総合病院

札幌マタニティウィメンズホスピタル  
医療法人徳洲会札幌徳洲会病院  
手稲溪仁会病院  
(医療法人)北晨会恵み野病院  
釧路市医師会病院  
シロアムクリニック  
斜里町国民健康保険病院

### 2. 青森県

独立行政法人国立病院機構弘前病院  
弘前大学医学部附属病院  
青森県立中央病院  
青森市民病院  
八戸市立市民病院  
国民健康保険五戸総合病院  
黒石市国保黒石病院  
浪岡町立病院  
国民健康保険鶴田町立中央病院  
国民健康保険五所川原市立西北中央病院  
鱒ヶ沢町立中央病院  
公立野辺地病院  
公立七戸病院  
むつ総合病院  
八戸赤十字病院  
町立大鱈病院  
県立あすなろ学園  
市立三沢病院  
(医療)誠仁会尾野病院  
弘前市立病院  
(財)双仁会厚生病院  
青森労災病院  
独立行政法人国立病院機構青森病院  
美保野病院  
医療法人赤心会十和田東病院

### 3. 岩手県

岩手県立中央病院  
岩手県立釜石病院  
岩手県立宮古病院  
岩手県立花巻厚生病院  
岩手県立胆沢病院  
岩手県立高田病院  
岩手県立久慈病院  
岩手県立福岡病院  
盛岡市立病院  
釜石市民病院  
盛岡赤十字病院  
北上済生会病院  
岩手医科大学附属病院  
もりおかこども病院  
岩手医科大学附属循環器医療センター  
啓愛会美希病院  
国立療養所盛岡病院  
独立行政法人国立病院機構釜石病院  
岩手県立山田病院  
岩手県立北上病院  
独立行政法人国立病院機構岩手病院  
川久保病院  
岩手県立遠野病院  
東八幡平病院  
岩手県立千歳病院

### 4. 盛岡県

仙台医療センター  
国療宮城病院  
東北大学医学部附属病院  
J R 仙台病院  
仙台通信病院  
仙台市立病院  
塩釜市立病院  
古川市立病院  
公立気仙沼総合病院  
公立志津川総合病院  
公立刈田総合病院  
みやぎ県南中核病院  
丸森町国保丸森病院  
若柳町国保病院  
公立佐沼総合病院  
総合病院仙台赤十字病院

石巻赤十字病院  
東北厚生年金病院  
東北公済病院  
(財)宮城厚生協会坂総合病院  
(医療)本多友愛会仙南病院  
南東北病院  
石巻市立病院  
松田会松田病院  
国療西多賀病院  
仙台社保病院  
光ヶ丘スベルマン病院  
東北労災病院  
自衛隊仙台病院  
宮城利府掖済会病院  
(財)宮城厚生協会長町病院  
宮城県拓桃医療療育センター  
中嶋病院  
財団法人宮城厚生協会古川民主病院  
公立米谷病院

### 5. 秋田県

大館市立総合病院  
比内町立扇田病院  
男鹿みなと市民病院  
秋田市立秋田総合病院  
公立角館総合病院  
公立横手病院  
秋田赤十字病院  
鹿角組合総合病院  
湖東総合病院  
秋田組合総合病院  
平鹿総合病院  
雄勝中央病院  
(医療)愛生会石田病院  
中通総合病院  
外旭川病院  
医療法人青嵐会本荘第一病院  
佐藤病院  
秋田社会保険病院  
大曲中通病院  
秋田大学医学部附属病院  
秋田県太平療育園  
北秋中央病院  
藤原記念病院

### 6. 山形県

山形県立中央病院  
山形県立新庄病院  
天童市立天童病院  
山形市立病院済生館  
鶴岡市立庄内病院  
公立高島病院  
米沢市立病院  
済生会山形済生病院  
(医療)篠田好生会篠田総合病院  
公立置賜総合病院  
山形県立河北病院  
山形大学医学部附属病院  
鶴岡協立病院  
国療山形病院

### 7. 福島県

福島県立医科大学附属病院  
福島県立会津総合病院  
公立藤田総合病院  
公立岩瀬病院  
公立小野町地方総合病院  
いわき市立総合警城共立病院  
いわき市立常磐病院  
国保原町市立病院  
総合病院福島赤十字病院  
白河厚生総合病院  
坂下厚生総合病院  
(財)大原総合病院  
(財)太田総合病院附属太田熱海病院  
(財)寿泉堂総合病院  
(財)竹田総合病院  
(財)竹林病院  
福島整肢療護園

財団法人大原総合病院附属大原医療センター  
財団法人太田総合病院附属太田西/内病院  
財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院  
新生会内科小児科佐藤病院  
小高町立病院  
県立南会津病院  
独立行政法人国立病院機構福島病院  
福島県厚生農協組合連双葉厚生病院  
(財)星総合病院  
(財)松村総合病院  
(医療)保科病院  
(社医)呉羽総合病院  
医療法人慈久会谷病院  
国立療養所翠ヶ丘病院  
医療生協わたり病院  
福島県心身障害児総合療育センター  
医療法人明信会今泉西病院  
医療法人三愛会池田温泉病院  
公立相馬総合病院

## 8. 茨城県

水戸医療センター  
国立霞ヶ浦病院  
茨城県立こども福祉医療センター  
茨城県立中央病院  
水戸済生会総合病院  
神栖済生会病院  
総合病院水戸協同病院  
国公共済連水府病院  
株式会社日立製作所多賀総合病院  
日立製作所水戸総合病院  
城南病院  
石岡第一病院  
つくばセントラル病院  
医療法人慈愛会秋葉産婦人科小児科病院  
県立こども病院  
ひたちなか母と子の病院  
双愛会つくば双愛病院  
茨城県立医療大学附属病院  
威恵会三岳荘小松崎病院  
なめがた地域総合病院  
青洲会神立病院  
白峰会湖南病院  
県西総合病院  
(医療)愛宣会秦病院  
株式会社日立製作所日立総合病院  
下館市民病院  
筑波大学附属病院  
(医療)住吉クリニック病院  
惇慈会日立港病院  
(医療)常仁会牛久愛和総合病院  
(財)筑波学園病院  
友愛記念病院  
北茨城市立総合病院  
総合病院取手協同病院  
高萩協同病院  
医療法人清真会丹野病院  
石岡市医師会病院  
財団法人筑波メディカルセンター病院  
医療法人筑波記念病院  
慶友会守谷慶友病院  
茨城西南医療センター病院  
国立療養所晴嵐荘病院

## 9. 栃木県

独立行政法人国立病院機構栃木病院  
小山市民病院  
芳賀赤十字病院  
大田原赤十字病院  
足利赤十字病院  
済生会宇都宮病院  
上都賀総合病院  
下都賀総合病院  
石橋総合病院  
佐野厚生総合病院  
宇都宮社会保険病院  
日光市民病院  
国療東宇都宮病院  
真岡病院  
光南病院  
医療法人社団友志会野木病院  
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院

英静会森病院  
自治医科大学附属病院  
獨協医科大学病院  
(財団法人医療法人十全会)上野内科・小児科  
黒須病院  
菅又病院  
とちぎリハビリテーションセンター  
西方病院  
とちの木病院

## 10. 群馬県

国立高崎病院  
国立沼田病院  
渋川総合病院  
桐生厚生総合病院  
藤岡総合病院  
碓氷病院  
伊勢崎市民病院  
原町赤十字病院  
公立富岡総合病院  
社保群馬中央総合病院  
富士重工健康保険組合総合太田病院  
上毛泌尿器科記念善衆会病院  
群馬循環器病院  
本島総合病院  
県立小児医療センター  
両毛整肢療護園  
伊勢崎佐波医師会病院  
群馬県済生会前橋病院  
前橋協立病院  
重症心身障害児施設はんなさわらび療育園  
希望の家療育病院  
国療西群馬病院  
群馬整肢療護園  
高崎中央病院  
小児科佐藤病院  
太田福島総合病院  
下仁田厚生病院

## 11. 埼玉県

独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院  
国立埼玉病院  
蕨市立病院  
春日部市立病院  
草加市立病院  
総合病院小川赤十字病院  
埼玉県済生会川口総合病院  
埼玉厚生農協連熊谷総合病院  
埼玉社会保険病院  
社保大宮総合病院  
川口工業総合病院  
(医社)東光会戸田中央総合病院  
(医社)啓明会中島病院  
(医療)健仁会益子病院  
(医療)へプロン会大宮中央総合病院  
愛友会上尾中央総合病院  
医療法人愛生会愛生会病院  
聖蹟会埼玉県央病院  
医療法人熊谷福島病院  
クリニカル病院  
埼玉県済生会栗橋病院  
北里研究所メディカルセンター病院  
西武産婦人科小児科病院  
県立小児医療センター  
へリオス会病院  
秩父市立病院  
本庄総合病院  
土屋小児病院  
清水病院  
一心会上尾甞生病院  
熊谷生協病院  
賢仁会産婦人科菅原病院  
三愛会総合病院  
埼玉医療生活協同組合皆野病院  
飯能中央病院  
独立行政法人国立病院機構東埼玉病院  
越谷市立病院  
(医社)協友会吉川中央総合病院  
朝霞中央総合病院  
(医社)協友会八潮中央総合病院  
防衛医科大学校病院  
(医療)聖仁会西部総合病院

(医社)東光会戸田中央産院  
埼玉協同病院  
大宮医師会市民病院  
至誠堂富田病院  
(医社)青葉会新座病院  
(医療)誠壽会上福岡総合病院  
埼玉よりの病院  
(医療)光仁会春日部厚生病院  
秋谷病院  
医療法人社団協友会東川口病院  
獨協医科大学越谷病院  
東鷲宮病院  
医療法人財団健和会みさと健和病院  
医療法人社団堀ノ内病院  
医療法人赤心堂病院  
埼玉医科大学総合医療センター  
東松山市立市民病院  
医療法人社団哺育会白岡中央病院  
医療法人財団石心会狭山病院  
医療法人明晴会西武入間病院  
至聖病院

## 12. 千葉県

国立精神・神経センター国府台病院  
国療下志津病院  
千葉大学医学部附属病院  
千葉県立東金病院  
千葉県循環器病センター  
千葉市立青葉病院  
浦安市市川市病院組合浦安市川市民病院  
国保松戸市立病院  
銚子市立総合病院  
総合病院国保旭中央病院  
公立長生病院  
成田赤十字病院  
千葉県済生会習志野病院  
社保船橋中央病院  
J F E 健保組合川鉄千葉病院  
(医療)鉄蕉会亀田総合病院  
東京歯科大学市川総合病院  
キョコマン総合病院  
千葉西病院  
医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院  
加藤病院  
千葉県こども病院  
東邦大学医学部附属佐倉病院  
野田病院  
日本医科大学附属千葉北総病院  
国保多古中央病院  
(医療)聖峰会岡田病院  
独立行政法人国立病院機構千葉東病院  
千葉社会保険病院  
(医社)千葉健生病院  
医療法人社団聖仁会我孫子聖仁会病院  
田中農協病院  
(医社)友康会行徳中央病院  
(医財)明理会新松戸中央総合病院  
(医社)東光会北総白井病院  
(医社)上総会塩之内病院  
(医療)公明会塩田病院  
千葉労災病院  
(医法)成春会北習志野花輪病院  
(医社)勤労者医協船橋二和病院  
(医社)協友会船橋総合病院  
(医社)協友会柏厚生総合病院  
東葛病院  
千葉市立海浜病院  
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院  
船橋市立医療センター  
(医社)愛友会流山病院  
医療法人社団保健会谷津保健病院  
医療法人三矢会八街総合病院  
帝京大学医学部附属市原病院  
医療法人沖繩徳洲会千葉徳洲会病院  
東京慈恵会医科大学附属柏病院

## 13. 東京都

国立がんセンター中央病院  
国立国際医療センター  
国立病院東京医療センター小児科  
東京医科歯科大学病院  
東京専売病院

NTT 東日本関東病院  
J R 東京総合病院  
東京通信病院  
自衛隊中央病院  
都立駒込病院  
都立墨東病院  
都立広尾病院  
東京都立大塚病院  
都立北療育医療センター  
都立豊島病院  
都立清瀬小児病院  
青梅市立総合病院  
日野市立病院  
公立昭和病院  
総合病院大森赤十字病院  
日本赤十字社医療センター  
武蔵野赤十字病院  
東京都済生会中央病院  
東京都国保団体連合会福生病院  
社保中央総合病院  
東京厚生年金病院  
虎の門病院  
総合病院三宿病院  
東京警察病院  
北里研究所病院  
永寿総合病院  
(財)日産厚生会玉川病院  
(社)至誠会第二病院  
練馬総合病院  
緑成会病院  
(医社)江東病院  
田園調布中央病院  
(医社)関川病院  
成和会西新井病院  
(医社)大坪会北多摩病院  
杏林大学病院  
東京慈恵会医科大学病院  
東京女子医科大学病院  
慶応義塾大学病院  
東京医科大学病院  
日本医科大学病院  
東邦大学大橋病院  
東邦大学大森病院  
東京女子医科大学第2病院  
日本大学附属板橋病院  
慈恵医科大学青戸病院  
慈恵医科大学附属病院第3病院  
東京電力病院  
小平記念東京日立病院  
東芝病院  
三井記念病院  
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院  
(社福)聖母会聖母病院  
浅草寺病院  
(社福)賛育会賛育会病院  
同愛記念病院  
久我山病院  
東京医療生協組合中野総合病院  
立正佼成会附属佼成病院  
東京衛生病院  
(社福)勝楽堂病院  
(社福)仁生社江戸川病院  
(社福)慈生会慈生会病院  
(社福)日本心身障害者協会昭島病院  
(社福)東京都同胞援護会昭島病院  
(医社)時正会佐々総合病院  
医療法人社団赤仁会市川第二病院  
財団法人東京都保健医療公社東部地域病院  
太陽こども病院  
医療法人社団日心会総合病院一心病院  
りんご会東十条病院  
都立東大和療育センター  
日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院  
産科婦人科久保田病院  
東京大学医科学研究所附属病院  
平成立石病院  
東京臨海病院  
都立府中療育センター  
(医財)健康文化会小豆沢病院  
緑風荘病院  
世田谷下田総合病院  
森本病院

公立阿伎留病院  
都立府中病院  
帝京大学医学部附属病院  
(医社)誠志会誠志会病院  
日本医科大学多摩永山病院  
博慈会記念総合病院  
秋津療育園  
東京健生病院  
昭和大学付属豊洲病院  
(医社)板橋中央総合病院  
(医社)明芳会高島平中央総合病院  
(医社)水野病院  
東京医科大学八王子医療センター  
東京都立神経病院  
国立精神神経センター武蔵病院  
医療法人社団健生会立川相互病院  
高澤病院  
日本大学医学部附属練馬光が丘病院  
医療法人社団大坪会東和病院

#### 14. 神奈川県

横須賀市立うまち病院  
独立行政法人国立病院機構相模原病院  
厚木市立病院  
神奈川県立足柄上病院  
横浜市立港湾病院  
横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター  
横浜市立市民病院  
川崎市立川崎病院  
平塚市民病院  
茅ヶ崎市立病院  
三浦市立病院  
大和市立病院  
横浜市立みなと赤十字病院  
(財)済生会神奈川県病院  
相模原協同病院  
社保横浜中央病院  
川崎社会保険病院  
横浜船員保険病院  
住友重機械健保組合浦賀病院  
国公共済連横浜南共済病院  
国公共済連総合病院横須賀共済病院  
国公共済連稲田登戸病院  
国公共済連総合病院平塚共済病院  
(財)神奈川県警友会けいゆう病院  
聖マリアンナ医科大学東横病院  
大口東総合病院  
(医療)柏堤会戸塚共立第1病院  
総合川崎臨港病院  
(医療)愛仁会太田総合病院  
(医社)亮正会総合高津中央病院  
日本医科大学附属第二病院  
日本鋼管病院  
国際親善総合病院  
総合病院聖ヨゼフ病院  
(社福)湘南福祉協会総合病院湘南病院  
総合相模更生病院  
仁厚会病院  
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
鈴木病院  
医療法人産育会堀病院  
西横浜国際総合病院  
医療法人大樹会佐藤病院  
湘南鎌倉総合病院  
横浜労災病院  
横浜市立大学医学部附属病院  
三喜会横浜新緑総合病院  
自衛隊横須賀病院  
康心会湘南東部総合病院  
(医療)柏堤会戸塚共立第2病院  
昭和大学横浜市北部病院  
聖隷横浜病院  
関東労災病院  
横浜市アレルギーセンター  
総合病院秦野赤十字病院  
厚生連総合病院伊勢原協同病院  
国公共済連虎の門病院分院  
(社団)日本厚生団長津田厚生総合病院  
総合病院横浜通信病院  
藤沢市民病院  
(財)横浜勤労者福祉協会汐田総合病院  
小澤病院

昭和大学藤が丘病院  
聖マリアンナ医科大学病院  
北里大学病院  
川崎医療生協川崎協同病院  
神奈川リハビリテーション病院  
済生会横浜市南部病院  
(医社)明芳会横浜旭中央総合病院  
神奈川県衛生看護専門学校附属病院  
(医社)青葉会牧野記念病院  
横須賀市立市民病院  
(医療)徳洲会大和徳洲会病院  
桜ヶ丘中央病院  
(医療)徳洲会茅ヶ崎徳洲会総合病院  
(医社)愛友会金沢文庫病院  
東海大学医学部附属大磯病院  
(医社)JMA海老名総合病院  
相武台病院  
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院  
医療法人社団緑成会横浜総合病院  
医療法人財団石心会川崎幸クリニック  
厚木佐藤病院  
医療法人社団柏綾会綾瀬厚生病院

#### 15. 新潟県

新潟大学医学部附属病院  
新潟県立ガンセンター新潟病院  
新潟県立新発田病院  
新潟県立吉田病院  
新潟県立加茂病院  
新潟県立十日町病院  
水原郷病院  
町立津南病院  
済生会三条病院  
豊栄病院  
三条総合病院  
長岡中央総合病院  
栃尾郷病院  
上越総合病院  
けいなん病院  
糸魚川総合病院  
佐渡総合病院  
小千谷総合病院  
上村病院  
(医療)立川総合病院  
済生会新潟第二病院  
県立妙高病院  
共生会中条中央病院  
亀田第一病院  
聖園病院  
新潟南病院  
木戸病院  
佐渡市立両津病院  
国療養所厚潟病院  
新潟県はまぐみ小児療育センター  
新津医療センター病院  
国民健康保険立ゆきぐに大和総合病院  
国立療養所西新潟中央病院  
白根健生病院  
レディスクリニック石黒  
長岡療育園  
厚生連村上総合病院

#### 16. 富山県

かみいち総合病院  
新湊市民病院  
市立砺波総合病院  
富山赤十字病院  
富山県済生会富山病院  
富山県済生会高岡病院  
厚生連高岡病院  
厚生連滑川病院  
社会保険高岡病院  
三輪病院  
公立南砺中央病院  
南砺市民病院  
国療富山病院  
富山医科薬科大学附属病院  
富山県立高志学園  
あさひ総合病院  
医療法人社団翠十字会誠友病院  
富山県高志リハビリテーション病院  
富山労災病院

## 17. 石川県

国立金沢病院  
山中温泉医療センター  
金沢大学医学部附属病院  
石川県立中央病院  
金沢市立病院  
国保小松市民病院  
公立能登総合病院  
公立加賀中央病院  
市立輪島病院  
金沢赤十字病院  
公立松任石川中央病院  
金沢社会保険病院  
金沢聖霊総合病院  
恵寿総合病院  
恵愛病院  
金沢有松病院  
公立羽咋病院  
国療医王病院  
国保町立根上総合病院  
珠洲市総合病院  
城北病院  
金沢医科大学病院  
金沢西病院  
独立行政法人国立病院機構七尾病院  
公立穴水総合病院  
医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院  
国民健康保険志雄病院

## 18. 福井県

独立行政法人国立病院機構福井病院  
公立丹南病院  
福井県立病院  
町立三国病院  
市立敦賀病院  
公立小浜病院  
福井赤十字病院  
福井県済生会病院  
福井社会保険病院  
(医療)安川病院  
福井県小児療育センター  
笠原病院  
(医療)福井愛育病院  
福井大学医学部附属病院

## 19. 山梨県

山梨県立中央病院  
韮崎市立病院  
山梨甲陽病院  
富士吉田市立病院  
巨摩共立病院  
加納岩総合病院  
塩山市民病院  
山梨温泉病院  
桃花会一宮温泉病院  
石和共立病院  
山梨赤十字病院  
甲府共立病院  
山梨厚生病院  
上野原町立病院  
山梨県立あけぼの医療福祉センター

## 20. 長野県

国立長野病院  
国立松本病院  
国療東長野病院  
信州大学病院  
長野県立阿南病院  
長野県立木曾病院  
長野県立須坂病院  
諏訪中央病院  
伊那中央病院  
市立大町総合病院  
豊科赤十字病院  
長野赤十字病院  
飯山赤十字病院  
長野県厚生農協連佐久総合病院  
長野県厚生農協連北信総合病院  
長野県厚生農協連新町病院  
(医療)慈泉会相澤病院  
N T T 長野病院  
県立こども病院

中信勤労者医療協会塩尻協立病院  
軽井沢町国民健康保険軽井沢病院  
登誠会諏訪マタニティークリニック  
佐久市立国保浅間総合病院  
国療中松本病院  
昭和伊南総合病院  
町立辰野総合病院  
飯田市立病院  
国保依田窪病院  
信濃医療福祉センター  
長野県厚生農協組合連合会篠ノ井総合病院  
医療法人新生病院  
長野松代総合病院  
健和会病院  
波田総合病院  
松本協立病院

## 21. 岐阜県

独立行政法人国立病院機構長良医療センター  
市立恵那病院  
岐阜県立岐阜病院  
岐阜県立多治見病院  
羽島市民病院  
国保関ケ原病院  
大垣市民病院  
美濃市立美濃病院  
多治見市民病院  
土岐市立総合病院  
総合病院中津川市民病院  
金山町国民健康保険病院  
総合病院高山赤十字病院  
岐阜県厚生農協同組合連合会岐北厚生病院  
岐阜県厚生農協連西美濃厚生病院  
岐阜県厚生農協連揖斐総合病院  
岐阜県厚生農協連総合病院中濃病院  
J A 岐阜厚生連東濃厚生病院  
岐阜社会保険病院  
公立学校共済組合東海中央病院  
木沢記念病院  
みどり病院  
医療法人藤掛病院  
岐阜県立下呂温泉病院  
国保飛騨市民病院  
(医社)誠広会平野総合病院  
松波総合病院  
国保坂下病院  
岐阜赤十字病院  
河村病院  
岐阜県厚生連久美愛病院

## 22. 静岡県

独立行政法人国立病院機構静岡医療センター  
独立行政法人国立病院機構天竜病院  
静岡県立総合病院  
静岡市立静岡病院  
沼津市立病院  
富士市立中央病院  
富士宮市立病院  
清水市立病院  
共立蒲原総合病院  
藤枝市立総合病院  
焼津市立総合病院  
榛原総合病院  
掛川市立総合病院  
菊川市立総合病院  
磐田市立総合病院  
共立湖西総合病院  
静岡赤十字病院  
総合病院浜松赤十字病院  
静岡済生会総合病院  
総合病院静岡厚生病院  
総合病院清水厚生病院  
遠州総合病院  
順天堂大学医学部附属順天堂伊豆長岡病院  
聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院  
聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院  
市立伊東市民病院  
独立行政法人国立病院機構静岡富士病院  
静岡県立静岡がんセンター  
重症心身障害児施設おおぞら療育センター  
静岡県立こども病院  
(社)有隣厚生会富士病院

清風会芹沢病院  
浜松医科大学附属病院  
国療静岡神経医療センター  
浜松労災病院  
芙蓉協会聖隷沼津病院  
社会保険浜松病院  
浜松北病院

## 23. 愛知県

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター  
独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター  
名古屋大学病院  
(J R)東海総合病院  
名古屋通信病院  
名古屋市立東市民病院  
名古屋市立城北病院  
名古屋市立城西病院  
名古屋市立大学病院  
名古屋市立守山市民病院  
豊橋市民病院  
岡崎市民病院  
一宮市立市民病院  
公立陶生病院  
市立半田病院  
春日井市民病院  
小牧市民病院  
津島市民病院  
公立尾陽病院  
西尾市民病院  
蒲郡市民病院  
常滑市民病院  
新城市市民病院  
尾西市市民病院  
名古屋第一赤十字病院  
名古屋第二赤十字病院  
愛知県厚生連海病病院  
愛知県厚生農協連加茂病院  
愛知県厚生農協連安城更生病院  
愛知県厚生農協連昭和病院  
社保中京病院  
名鉄病院  
名古屋掖済会病院  
笠寺病院  
総合大雄会病院  
刈谷総合病院  
(医療)光生会病院  
東海市民病院  
三菱名古屋病院  
大同病院  
トヨタ記念病院  
聖霊病院  
青和会中央病院  
秋病院  
名南病院  
一心会加藤産婦人科病院  
碧南市民病院  
県立尾張病院  
豊田地域医療センター  
医仁会さくら病院  
愛知県青い鳥医療福祉センター  
岩田病院  
三好町民病院  
碧友会堀尾安城病院  
深谷会富士病院  
名古屋市立緑市民病院  
中部労災病院  
N T T 西日本東海病院  
南生協病院  
藤田保健衛生大学病院  
愛知医科大学病院  
あさいクリニック  
(医療)宝美会総合青山病院  
(医療)志聖会犬山中央病院  
愛知県厚生農協連西病院  
(医療)済衆館病院  
愛知県厚生農協連知多厚生病院  
旭労災病院  
医療法人財団新和会八千代病院  
国立療養所豊橋東病院  
成田記念病院  
一宮市立市民病院今伊勢分院  
(医療)来光会尾州病院

医療法人青山病院  
医療法人宏和会山口病院  
医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院  
安藤病院

## 24. 三重県

国療鈴鹿病院  
独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター  
三重県立総合医療センター  
三重県立志摩病院  
桑名市民病院  
市立四日市病院  
市立伊勢総合病院  
伊賀市立上野総合市民病院  
尾鷲総合病院  
山田赤十字病院  
済生会松阪総合病院  
三重県厚生連松阪中央総合病院  
四日市社会保険病院  
山本総合病院  
岡波総合病院  
三重県厚生連鈴鹿中央総合病院  
菰野厚生病院  
名張市立病院  
大門病院  
三重県厚生連いなべ総合病院  
済生会明和病院  
独立行政法人国立病院機構三重病院  
津生協病院  
医療法人ヨナクリニック  
鈴鹿回生病院

## 25. 滋賀県

大津市民病院  
近江八幡市民病院  
市立長浜病院  
伊香郡病院組合立湖北総合病院  
公立高島総合病院  
長浜赤十字病院  
済生会滋賀県病院  
社会保険滋賀病院  
重症心身障害児施設第一びわこ学園  
国保能登川病院  
真心会南草津野村病院  
大津赤十字志賀病院  
昂会湖東記念病院  
重症心身障害児施設第二びわこ学園  
(医療)彦根中央病院  
守山市民病院  
滋賀医科大学病院  
野洲病院  
国療紫香楽病院  
医療法人弘英会琵琶湖大橋病院  
日野記念病院  
友仁山崎病院

## 26. 京都府

京都医療センター  
市立福知山市民病院  
国立舞鶴病院  
京都大学病院  
京都専売病院  
京都市立病院  
公立南丹病院  
市立舞鶴市民病院  
京都第二赤十字病院  
京都第一赤十字病院  
舞鶴赤十字病院  
社会保険京都病院  
舞鶴共済病院  
総合病院日本パプテスト病院  
(社)愛生会山科病院  
堀川病院  
総合病院京都南病院  
(社福)宇治病院  
府立舞鶴こども療育センター  
京丹後市立久美浜病院  
三青園丹後ふるさと病院  
石鐘会田辺中央病院  
足立病院  
国療南京都病院  
西京都病院

国療宇多野病院  
京都通信病院  
京都武田病院  
宇治武田病院  
京都社会事業財団 京都桂病院  
関西医科大学男山病院  
(医療)育生会久野病院  
関西医科大学附属洛西ニュータウン病院  
(医療)宇治徳洲会病院  
(医療)啓信会京都さづ川病院  
金井病院  
社団法人京都保健会京都民医連中央病院  
洛和会音羽病院  
京都市桃陽病院  
第二岡本総合病院  
医療法人和松会六地藏総合病院  
医聖会京都八幡病院  
医聖会八幡中央病院  
京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門

## 27. 大阪府

国立大阪病院  
国立大阪南病院  
大阪大学医学部附属病院  
大阪府立病院  
大阪府立十三市民病院  
大阪市立大学病院  
市立豊中病院  
市立枚方市民病院  
八尾市立病院  
泉大津市立病院  
市立岸和田市民病院  
市立貝塚病院  
市立泉佐野病院  
大阪赤十字病院  
大阪府済生会泉尾病院  
済生会野江病院  
大阪厚生年金病院  
大阪船員保険病院  
松下記念病院  
大手前病院  
京阪奈病院新香里病院  
田附興風会北野病院  
住友病院  
大阪掖済会病院  
日本生命済生会日生病院  
聖パルナバ病院  
大阪府警察協会大阪警察病院  
(財)西淀病院  
浅香山病院  
(医療)きっこう会総合病院多根病院  
彰療会大正病院  
景岳会総合病院南大阪病院  
同仁会耳原総合病院  
宝生会PL病院  
大阪医科大学病院  
関西医科大学病院  
関西電力病院  
大阪暁明館病院  
淀川キリスト教病院  
真美会中野こども病院  
寺西報恩会長吉総合病院  
医誠会撰津医誠会病院  
若弘会若草第一病院  
三世会森本病院  
錦秀会阪和住吉総合病院  
大阪府立総合医療センター小児循環器内科  
東和会第二東和会病院  
三友会久松病院  
四天王寺福祉事業団四天王寺和らぎ苑  
市立柏原病院  
仙養会北摂総合病院  
有恵会沢総合病院  
国立循環器病センター  
市立松原病院  
和泉市立病院  
高槻赤十字病院  
愛仁会千船病院  
清恵会病院  
岸和田徳洲会病院  
愛仁会高槻病院  
近畿大学医学部附属病院

コープおおさか病院  
北大阪医療生活協同組合照葉の里箕面病院  
愛徳福祉会南大阪療育園  
温心会堺温心会病院  
富田林病院  
信愛会交野病院  
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター  
結核予防会大阪府支部大阪病院  
(医療)公道会病院  
誠会城東中央病院  
大道会ボバース記念病院  
協和会北大阪病院  
箕面市立病院  
茨木医誠会病院  
祐生会みどりヶ丘病院  
協仁会小松病院  
守口敬任会病院  
生協こども診療所  
大阪府立母子保健総合医療センター  
阪南市立病院  
恵生会病院  
医誠会病院  
同友会共和病院  
東和病院  
愛賛会浜田病院  
紀和会正風病院  
生長会ベルランド総合病院  
うえだ下田部病院  
大植会葛城病院  
孟仁会撰南総合病院  
蒼生病院

## 28. 兵庫県

国立姫路病院  
明石医療センター  
国療兵庫中央病院  
神戸大学病院  
関西労災病院  
兵庫県立塚口病院  
兵庫県立淡路病院  
兵庫県立西宮病院  
神戸市立中央市民病院  
明石市立市民病院  
市立三木市民病院  
公立豊岡病院  
西宮市立中央病院  
加古川市民病院  
市立川西病院  
市立伊丹病院  
公立八鹿病院  
小野市民病院  
市立西脇病院  
市立芦屋病院  
三田市民病院  
姫路赤十字病院  
柏原赤十字病院  
済生会兵庫県病院  
社保神戸中央病院  
学共済近畿中央病院  
神戸掖済会病院  
総合病院昭和病院  
(医療)明和病院  
神鋼病院  
鐘紡記念病院  
新日鉄広畑病院  
石川島播磨重工業健保組合播磨病院  
龍野中央病院  
六甲アイランド病院  
西神戸医療センター  
適寿リハビリテーション病院  
公立宍粟郡民病院  
樹徳会上ヶ原病院  
兵庫医科大学篠山病院  
淡路平成会東浦平成病院  
神戸赤十字病院  
砂子療育園  
神戸通信病院  
自衛隊阪神病院  
公立社総合病院  
公文病院  
(医療)薫風会佐野病院  
明舞中央病院

(医療)尚和会宝塚第一病院  
尼崎医療生協病院  
(医療晋真会)ペリタス病院  
医療法人社団愛明会明石回生病院  
神鋼加古川病院  
国立療養所青野原病院  
兵庫県立柏原病院  
東神戸病院  
国立神戸病院  
真星病院  
医療法人パルモア病院  
汐咲会井野病院  
宝塚市立病院  
医療法人伯鳳会赤穂中央病院

### 29. 奈良県

市立奈良病院  
奈良県立医科大学病院  
榛原町立榛原総合病院  
大和高田市立病院  
町立大淀病院  
済生会奈良病院  
奈良社会保険病院  
天理よろづ相談所病院  
土庫病院  
奈良県心身障害者リハビリテーションセンター  
国保中央病院  
独立行政法人国立病院機構奈良医療センター  
奈良県国保連合会生駒総合病院  
奈良県立奈良病院  
奈良県立五條病院  
奈良県立三室病院  
東生駒病院  
済生会中和病院  
済生会御所病院  
東大寺整肢園  
清心会桜井病院  
友紘会病院

### 30. 和歌山県

和歌山県立医科大学病院  
和歌山県立医科大学病院紀北分院  
海南市民病院  
公立那賀病院  
橋本市民病院  
国保日高総合病院  
社保紀南総合病院  
新宮市立医療センター  
日本赤十字社和歌山医療センター  
白浜はまゆう病院  
富田会富田病院  
独立行政法人国立病院機構和歌山病院  
労働福祉事業団和歌山労災病院  
和歌山生協病院  
独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター

### 31. 鳥取県

独立行政法人国立病院機構米子医療センター  
鳥取大学病院  
鳥取県立中央病院  
鳥取市立病院  
国保智頭病院  
鳥取県済生会境港総合病院  
博愛病院  
鳥取生協病院  
県立皆生小児療育センター  
独立行政法人国立病院機構西鳥取病院

### 32. 島根県

大田市立病院  
国立浜田病院  
島根県立中央病院  
松江市立病院  
平田市立病院  
仁多町立仁多病院  
公立雲南総合病院  
島後町村組合立隠岐病院  
松江赤十字病院  
益田赤十字病院  
済生会江津総合病院  
津和野共存病院  
東部島根心身障害医療福祉センター

吉生会吉岡病院  
安来市立病院  
松江生協病院  
島根医科大学病院  
国療松江病院  
西部島根心身障害医療福祉センター  
松江記念病院

### 33. 岡山県

国立病院岡山医療センター  
総合病院岡山市立市民病院  
倉敷市立児島市民病院  
笠岡市立市民病院  
総合病院岡山赤十字病院  
岡山済生会総合病院  
川崎医学振興財団川崎病院  
(財)弘仁会総合病院玉島病院  
総合病院津山中央病院  
(医)水と会水島中央病院  
新見中央病院  
総合病院落合病院  
総合病院水島協同病院  
倉敷平成病院  
さとう記念病院  
ペリネイト母と子の病院  
国保町立成羽病院  
水と会倉敷リハビリテーション病院  
市立玉野市民病院  
旭川荘療育センター児童院  
川崎医科大学病院  
独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター  
重井医学研究所附属病院  
(財)仁厚医学研究所児島中央病院  
倉敷成人病センター  
倉敷リバーサイド病院  
和香会倉敷廣済病院  
笠岡中央病院  
岡山労災病院

### 34. 広島県

国立病院呉医療センター  
独立行政法人国立病院機構福山医療センター  
国療原病院  
国療広島病院  
広島鉄道病院  
広島通信病院  
県立広島病院  
県立安芸津病院  
社保広島市民病院  
市立三次中央病院  
総合病院三原赤十字病院  
総合病院庄原赤十字病院  
広島厚生連農協 尾道総合病院  
厚生連広島総合病院  
広島県厚生農協連吉田総合病院  
広島県厚生農協連府中総合病院  
日立造船健保因島総合病院  
広島記念病院  
呉共済病院  
中国電力株式会社中電病院  
総合病院三菱三原病院  
マツダ株式会社マツダ病院  
済生会広島病院  
頼島産婦人科病院  
広島市医師会運営安芸市民病院  
独立行政法人国立病院機構賀茂精神医療センター  
尾道市立市民病院  
日本鋼管福山病院  
広島市立舟入病院  
福山市市民病院  
広島医療生協広島共立病院  
広島市立安佐市民病院  
中国労災病院  
県立身体障害者リハビリテーションセンター  
医療センター  
総合病院三愛  
多田病院  
みのり会北川病院  
公立みつぎ総合病院  
あかね会土谷総合病院  
正岡病院  
うすい会高陽ニュータウン病院

松田病院  
里仁会興生総合病院  
福山循環器病院

### 35. 山口県

独立行政法人国立病院機構関門医療センター  
山口大学病院  
山口県立中央病院  
下関市立中央病院  
小野田市立病院  
山陽中央総合病院  
共立美東国保病院  
総合病院山口赤十字病院  
周東総合病院  
小郡第一総合病院  
長門総合病院  
社保徳山中央病院  
オーブシステム総合病院徳山医師会病院  
神徳会三田尻病院  
新南陽市民病院  
山口労災病院  
鼓ヶ浦こども医療福祉センター  
和同会山口リハビリテーション病院  
至誠会梅田病院  
山口県済生会豊浦町立病院  
国療山陽病院  
都志見病院  
元洋会森山病院  
国療柳井病院  
宇部興産中央病院  
町立大和総合病院  
治徳会湯野温泉病院  
宇部協立病院

### 36. 徳島県

徳島県立中央病院  
徳島県立三好病院  
徳島市民病院  
町立半田病院  
徳島赤十字病院  
阿南共栄病院  
厚生連麻植協同病院  
健保鳴門病院  
道志社リハビリテーション大神子病院  
国療東徳島病院  
徳島県立海部病院  
(医療)原田病院  
阿波病院

### 37. 香川県

国立善通寺病院  
香川県立中央病院  
土庄中央病院  
総合病院坂出市立病院  
高松赤十字病院  
屋島総合病院  
滝宮総合病院  
麻田総合病院  
深田記念会松井病院  
内海病院  
赤心会赤沢病院  
純心会善通寺前田病院  
国療香川小児病院  
香川県済生会病院  
坂出聖マルチン病院  
香川医科大学病院  
香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター医療センター  
香川町国民健康保険香川病院  
高松平和病院  
香川井下病院

### 38. 愛媛県

国療愛媛病院  
愛媛県立中央病院  
愛媛県立今治病院  
愛媛県立三島病院  
市立八幡浜総合病院  
町立宇和病院  
市立宇和島病院  
町立吉田総合病院  
町立津島病院

総合病院松山赤十字病院  
西条中央病院  
住友別子病院  
公立学校共済組合四国中央病院  
伊予病院  
(財法)積善会附属十全総合病院  
山内病院  
更生会村上記念病院  
愛媛大学病院  
西条市立周桑病院  
済生会今治病院

### 39. 高知県

国立高知病院  
高知県立中央病院  
土佐市立土佐市民病院  
佐川町立高北国保病院  
J A高知病院  
須崎くろしお病院  
聖真会渭南病院  
幡多けんみん病院  
岡本会さくら病院  
(医療)仁生会三愛病院  
十全会早明浦病院  
高知医科大学病院  
高知県立安芸病院  
長生会大井田病院

### 40. 福岡県

独立行政法人国立病院機構小倉病院  
国立病院九州医療センター  
独立行政法人国立病院機構福岡病院  
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター  
久留米大学医療センター小児科  
九州大学病院  
福岡通信病院  
福岡県立柳川病院  
北九州市立門司病院  
北九州市立医療センター  
北九州市立若松病院  
北九州市立八幡病院救命救急センター  
大牟田市立総合病院  
筑後市立病院  
福岡赤十字病院  
福岡県済生会福岡総合病院  
九州厚生年金病院  
新小倉病院  
浜の町病院  
公立学校共済九州中央病院  
福岡島飼病院  
福岡記念病院  
聖マリア病院  
久留米大学病院  
宗像医師会病院  
宗像水光会総合病院  
八女中央病院  
九州労災病院  
千早病院  
恵光会原病院  
国立病院九州がんセンター  
福岡県済生会二日市病院  
聖ヨゼフ園  
慈恵曾根病院  
正信会水戸病院  
ゆうかり学園  
町立芦屋中央病院  
産業医科大学病院  
福岡大学病院  
北九州総合病院  
北九州市立総合療育センター  
福岡市立こども病院・感染症センター  
米の山病院  
丸山病院  
高邦会高木病院  
健和会大手町病院  
牧山中央病院  
川崎町立病院  
甘木朝倉医師会病院  
西野病院  
牟田病院  
和白病院  
菅原病院

水巻共立病院  
健和会京町病院  
新田原聖母病院  
福岡県立粕屋新光園  
社会保険仲原病院  
井上会篠栗病院  
福岡大学筑紫病院  
相生会宮田病院  
社会保険田川病院

### 41. 佐賀県

国立佐賀病院  
国立嬉野病院  
佐賀県立病院好生館  
伊万里市立市民病院  
佐賀社会保険病院  
佐賀整枝学園こども発達医療センター  
竜門堂大野病院  
古賀小児科内科病院  
独立行政法人国立病院機構東佐賀病院  
国立肥前療養所  
佐賀医科大学病院  
清明会やよいがおか鹿毛病院  
静便堂白石共立病院  
順天堂病院  
至慈会高島病院

### 42. 長崎県

国立病院長崎医療センター  
独立行政法人国立病院機構長崎神経医療センター  
長崎大学病院  
長崎市立市民病院  
佐世保市立総合病院  
五島中央病院  
老岐公立病院  
健保諫早総合病院  
佐世保共済病院  
長崎記念病院  
(医療)白十字会佐世保中央病院  
長崎造船所病院  
国保平戸市民病院  
医療法人医理会栢添病院  
日赤長崎原爆病院  
長崎県立島原病院  
長崎県済生会病院  
諫早療育センター  
みさかえの園あゆみの家  
中対馬病院  
田上病院  
平成会女の都病院  
上五島病院

### 43. 熊本県

国療再春荘病院  
熊本大学医学部附属病院  
自衛隊熊本病院  
熊本市民病院  
菊水町立病院  
荒尾市民病院  
球磨郡公立多良木病院  
上天草総合病院  
熊本赤十字病院  
八代総合病院  
健保天草中央総合病院  
熊本中央病院  
熊本労災病院  
天草慈恵病院  
愛育会福田病院  
熊本循環器科病院  
熊本第一病院  
谷田会谷田病院  
聖和会有明成仁病院  
八代市医師会立病院  
牛深市民病院  
坂本病院  
熊本地域医療センター  
公立玉名中央病院  
山鹿市立病院  
丸田病院  
はまゆう療育園  
玉名地域保健医療センター  
菊池中央病院

坂梨会阿蘇温泉病院

### 44. 大分県

別府医療センター  
国療西別府病院  
中津市立中津市民病院  
東国東広域国保総合病院  
山香町立国保総合病院  
津久見市医師会立津久見中央病院  
大分こども病院  
大分県済生会日田病院  
別府発達医療センター  
大川産婦人科病院  
大分市医師会立アルメイダ病院  
大分大学医学部附属病院  
健保南海病院  
医療法人財団天心堂へつぎ病院  
大分岡病院

### 45. 宮崎県

県立宮崎病院  
県立延岡病院  
県立日南病院  
小林市立市民病院  
高千穂町国保病院  
都城市郡医師会病院  
育生会井上病院  
耕和会迫田病院  
宮崎協病院  
宏仁会海老原総合病院  
宮崎大学附属病院  
宮崎県済生会日向病院

### 46. 鹿児島県

国立病院九州循環器病センター  
独立行政法人国立病院機構指宿病院  
鹿児島大学病院  
県民健康プラザ鹿児島医療センター  
鹿児島市立病院  
出水市立病院  
高田病院  
鹿児島こども病院  
国分生協病院  
沖永良部徳州会病院  
喜界徳州会病院  
徳州会屋久島徳州会病院  
隼人町立医師会医療センター  
徳州会名瀬徳州会病院  
国療南九州病院  
総合病院鹿児島生協病院  
やまびこ医療福祉センター  
済生会川内病院  
出水郡医師会立阿久根市民病院  
鹿児島市医師会病院  
鹿児島県立薩南病院  
曽於郡医師会立病院  
徳州会鹿児島徳州会病院  
財団法人今給黎総合病院  
薩摩郡医師会病院  
医療法人徳州会徳之島徳州会病院

### 47. 沖縄県

北部病院  
球陽会海邦病院  
糸数病院  
県立北部病院  
総合病院沖縄赤十字病院  
琉球大学病院  
県立八重山病院  
沖縄協同病院  
那覇市立病院  
(医療)おもと会大浜第1病院  
沖縄整肢療護園  
沖縄県立南部病院  
仁愛会浦添総合病院  
もとぶ野毛病院  
中部徳州会病院  
北上中央病院  
潮平病院  
沖縄県立沖縄療育園  
医療法人信和会沖縄第一病院  
与那原中央病院

# 川崎病調査票(第18回全国調査)

←住所、電話番号の誤りは朱書にてご訂正下さい。 P.

お願い

- 平成15年1月1日～平成16年12月31日の2年間に発症し貴施設を受診した患者全員について記入して下さい。
- 症例がない場合も本調査票のQ1.「施設に関する質問」をご記入の上、ご返送下さい。
- 他施設より紹介された患者、他施設へ紹介した患者も含めます(調査票の患者紹介の欄に詳細をご記入ください)。

返送先  
〒329-0498  
栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1  
自治医科大学公衆衛生学教室気付  
川崎病全国疫学調査事務局 宛  
電話:(0285-44-6192, 0285-58-7338)  
ファクシミリ:(0285-44-7217)

主治医(代表者) ご芳名		2004.12 厚生労働省川崎病全国疫学調査事務局作成		性	出生年月日	初診年月日 初診年は1:か2:に○をつける	初診時 病日	解熱 病日 最高体温が37.5℃未満となりそれが24時間経過した時点の病日	診断の 確実度 1:6つの主要症状のうち5つ以上の症状あり 2:4つの症状しかないが冠動脈瘤(拡大)を伴う 3:診断の手引きに合致しないが疑いがある	ガンマグロブリン投与 貴院で投与した分のみ記入する 追加治療はあてはまるものすべてに○をつける	今回の 発症	同胞例	両親の 川崎病 既往歴	心障害 該当するものすべてに○をつける 巨大瘤は直径8mm以上の冠動脈瘤をいう		患者紹介 他施設より紹介があり、転院した場合は4にも○をつける	死亡 2 ありの場合 Q2も記入する
発病時患者住所 番地は省略する		急性期 (1か月以内)												後遺症 (1か月以降)			
患者氏名 イニシアル 姓・名の順 に記入する	都道府県 市郡 区町村	1 初発	2 再発											1 なし	2 あり		
	都道府県 市郡 区町村	1 男 昭・平____年 ____月____日	1 平成15年 ____病日 2 平成16年 ____月____日	初診時 ____病日 退院時 ____病日	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 初回投与開始 ____病日 2 あり 1日____mg/kg × ____日	追加治療ありの場合 1 ガンマグロブリン追加投与 投与開始 ____病日 追加総投与量____mg/kg 2 ステロイド投与 3 ウリナスタチン投与 4 血漿交換	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 紹介なし 2 診療所より紹介 3 病院より紹介 4 他施設へ紹介	1 なし 2 あり			
	都道府県 市郡 区町村	1 男 昭・平____年 ____月____日	1 平成15年 ____病日 2 平成16年 ____月____日	初診時 ____病日 退院時 ____病日	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 初回投与開始 ____病日 2 あり 1日____mg/kg × ____日	追加治療ありの場合 1 ガンマグロブリン追加投与 投与開始 ____病日 追加総投与量____mg/kg 2 ステロイド投与 3 ウリナスタチン投与 4 血漿交換	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 紹介なし 2 診療所より紹介 3 病院より紹介 4 他施設へ紹介	1 なし 2 あり			
	都道府県 市郡 区町村	1 男 昭・平____年 ____月____日	1 平成15年 ____病日 2 平成16年 ____月____日	初診時 ____病日 退院時 ____病日	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 初回投与開始 ____病日 2 あり 1日____mg/kg × ____日	追加治療ありの場合 1 ガンマグロブリン追加投与 投与開始 ____病日 追加総投与量____mg/kg 2 ステロイド投与 3 ウリナスタチン投与 4 血漿交換	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 紹介なし 2 診療所より紹介 3 病院より紹介 4 他施設へ紹介	1 なし 2 あり			
	都道府県 市郡 区町村	1 男 昭・平____年 ____月____日	1 平成15年 ____病日 2 平成16年 ____月____日	初診時 ____病日 退院時 ____病日	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 初回投与開始 ____病日 2 あり 1日____mg/kg × ____日	追加治療ありの場合 1 ガンマグロブリン追加投与 投与開始 ____病日 追加総投与量____mg/kg 2 ステロイド投与 3 ウリナスタチン投与 4 血漿交換	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 紹介なし 2 診療所より紹介 3 病院より紹介 4 他施設へ紹介	1 なし 2 あり			
	都道府県 市郡 区町村	1 男 昭・平____年 ____月____日	1 平成15年 ____病日 2 平成16年 ____月____日	初診時 ____病日 退院時 ____病日	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 初回投与開始 ____病日 2 あり 1日____mg/kg × ____日	追加治療ありの場合 1 ガンマグロブリン追加投与 投与開始 ____病日 追加総投与量____mg/kg 2 ステロイド投与 3 ウリナスタチン投与 4 血漿交換	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 紹介なし 2 診療所より紹介 3 病院より紹介 4 他施設へ紹介	1 なし 2 あり			
	都道府県 市郡 区町村	1 男 昭・平____年 ____月____日	1 平成15年 ____病日 2 平成16年 ____月____日	初診時 ____病日 退院時 ____病日	1 確実A 2 確実B 3 容疑	1 なし 初回投与開始 ____病日 2 あり 1日____mg/kg × ____日	追加治療ありの場合 1 ガンマグロブリン追加投与 投与開始 ____病日 追加総投与量____mg/kg 2 ステロイド投与 3 ウリナスタチン投与 4 血漿交換	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 あり (父・母) 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 紹介なし 2 診療所より紹介 3 病院より紹介 4 他施設へ紹介	1 なし 2 あり			

Q1.「施設に関する質問」(本調査票を2枚以上使用の場合は1枚目にご記入下さい)

1. 貴院のベッド数はいくつですか。 病院全体 \_\_\_\_\_床 小児科一般病床 \_\_\_\_\_床

2. 貴院の小児科医は何人ですか。 常勤小児科医 \_\_\_\_\_人 非常勤小児科医 \_\_\_\_\_人  
そのうち循環器を専門とする小児科医 常勤小児科医 \_\_\_\_\_人 非常勤小児科医 \_\_\_\_\_人

3. 貴院では川崎病患者に対するガンマグロブリンの基本的な投与方式を決めていますか。 1 はい( \_\_\_\_\_mg/kg× \_\_\_\_\_日間) 2 いいえ

Q2.「死亡例に関する質問」(今回の報告のみでなく、前回までの調査で生存として報告され、後に死亡した例も含めてご記入下さい)

患者氏名(イニシアル)	性	出生年月日	川崎病初診年月日	死亡年月日	剖検の有無	死亡原因	剖検の施設名など
姓 名	1 男 2 女	昭・平____年 ____月____日	昭・平____年 ____月____日	平成____年 ____月____日	1 なし 2 あり		
姓 名	1 男 2 女	昭・平____年 ____月____日	昭・平____年 ____月____日	平成____年 ____月____日	1 なし 2 あり		